

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



中国手話との出会い

宮崎市福祉部介護保険課 主査 小野田 貴哉

北京オリンピック・パラリンピック競技大会が間近に迫る 2004 年 4 月から 2 年間、クレア北京事務所に勤務しました。この頃は、小泉首相の時期で、着任翌年には反日デモが中国各地で発生し、日本の自治体と中国との交流が減った頃といえ、当時の雰囲気は少し思ひ出されるのではないのでしょうか。

仕事面では、日本の自治体の海外活動支援や日中地域間交流推進セミナー等で中国側との調整に苦心したことや、イベントを成し遂げて達成感を味わったことなど、断片的な記憶はあるものの、10 年以上前のことで、細かいところは覚えていません。思い違いをしたことを記載して、関係者のみなさまにご迷惑をかける訳にいきませんので、今回は、仕事上の思い出話ではなく、海外での経験を振り返り、仕事が終わった後に自主的に参加していた中国手話サークルについて書かせていただきます。

きっかけは、私が赴任した年、北京在住で中国手話を広める活動をなされていた方が、私が手話を勉強していたことを知り、中国手話の勉強会を立ち上げないかと誘っていただいたことでした。その後、北京日本人会や北京市内で配布されている日本人向け雑誌に案内を載せ、日本人有志 10 人弱でスタートしました。講師は、中国手話の確立に尽力された方とのことで、どんな方だろうと思いつつお会いすると、優しさが身体からにじみ出ているような小柄な男性でした。手話自体は日本と似ているものもあり、はじめは混同しましたが、一つ一つの表現にその国の文化が反映されていると感じ、興味深かったです。講座は、週 1 回の座学形式でしたが、先生のスピードについていけなくなったことから、先生の手話を動画で撮って、メンバーだけで自主練習を行うこともありました。そのうち、次第にメンバーも増え、2 年目には、中国の聴覚障がい者の方々を迎えて交流会を開催するまでに成長しました。

あれから 13 年が経過し、日本も中国も、街は大きく様変わりしましたが、人々の営みは、以前と変わらず続いています。今回のクレア北京事務所での勤務で、短い期間ではありますが、外国で現地の方とともに活動できたことは、自分にとってかけがえのない経験となりました。帰国後、中国手話の多くは忘れてしまい、中国での経験は、今の手話勉強会で多少紹介する程度になってしまいました。ただ、今の手話講師は、国際手話も習得され、中国の聴覚障がい者との交流もあるそうです。私も中国手話を復習して、いつか、日本と中国の聴覚障がい者が交流する場に立ち会えるように、これからも地道に手話を続けていくつもりです。



現在の手話勉強会の様子 (筆者は右から 2 番目)

プロフィール・ほか

- 現在の所属：宮崎市福祉部介護保険課
- クレア時代の所属：2003 年 4 月～2004 年 3 月
クレア東京本部総務部総務課 主査
2004 年 4 月～2006 年 3 月
クレア北京事務所 所長補佐